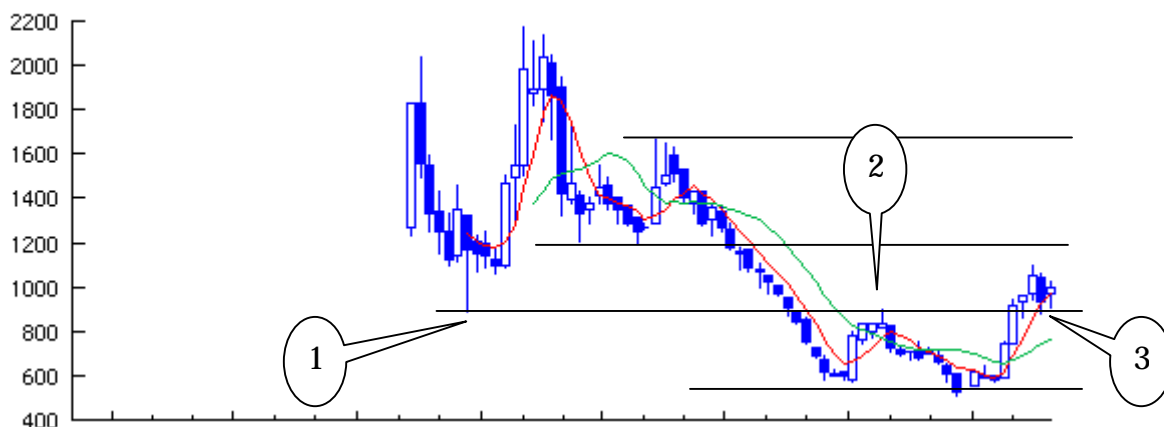
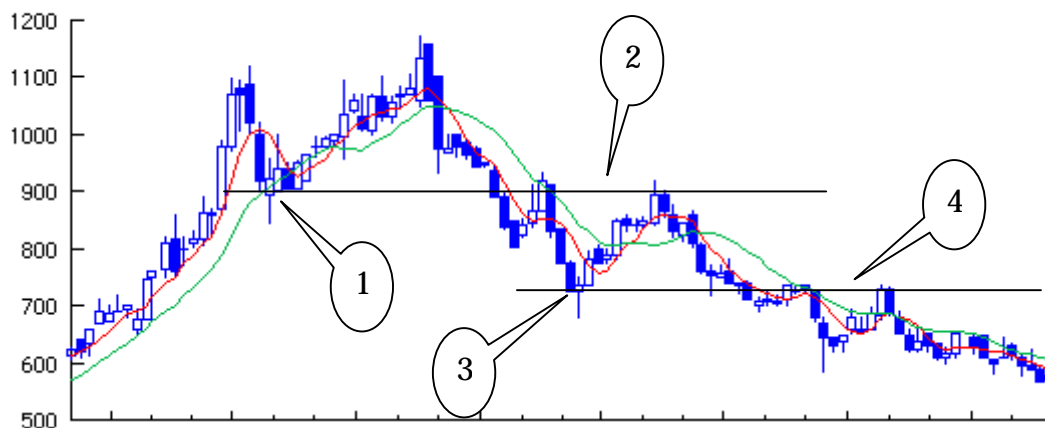


第9回「保ち合いとフシ」パート2

今回も引き続き「保ち合い」と「フシ」の基本を習得して頂きたいと思います。早く身に付けるコツは「目で見て覚える」事だと思しますのでイメージで捕らえてください。



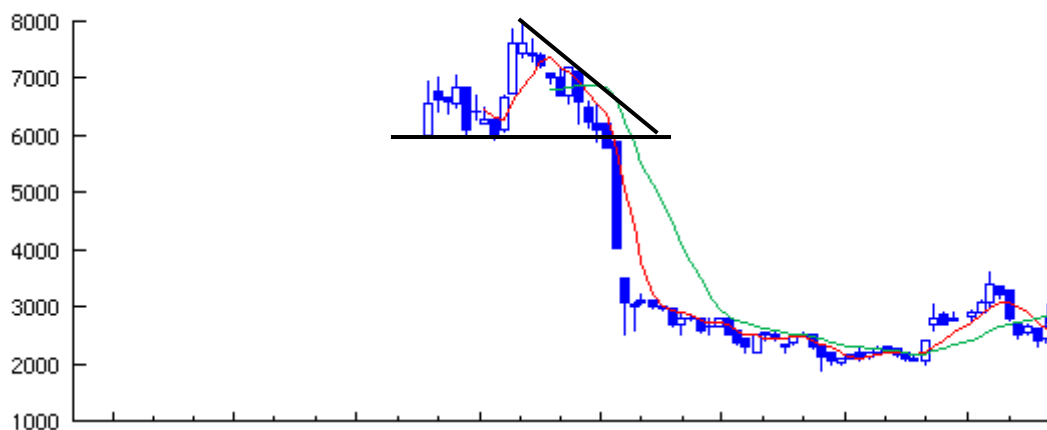
上のチャートは で付けた安値が抵抗帯（フシ）となったケースです。の上昇の頭を押さえ の様に突破した後は下値支持線となっている事が解ると思います。上の2本の線（抵抗帯）も同じ意味を持つ事になります。



上のチャートは で付けた始値、終値が抵抗帯（フシ）となったケースです。の所で上昇する株価の頭を押さええている事が解ると思います。この会社が存続する限りこのフシは株価に影響を与え続ける事になります。

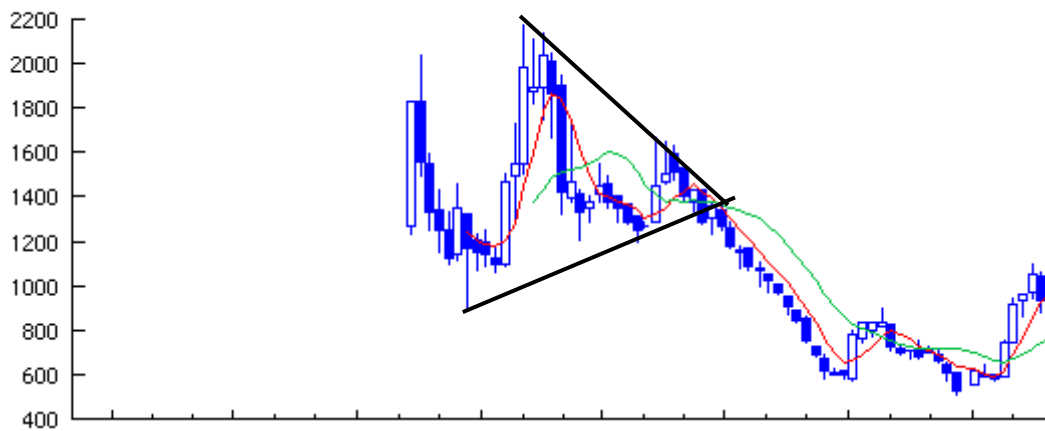


上のチャートの様に 2 本線の幅の部分が抵抗ゾーンと考えれば多少の誤差があっても間違っただ判断を下す確率は少なくなると言えるでしょう。

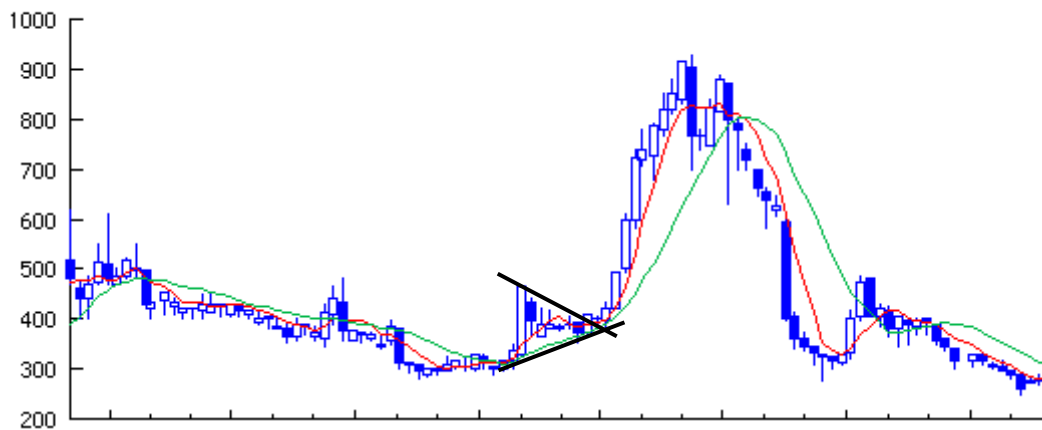


上のチャートは三角保ち合いを下放れて株価が急落したケースです。高値圏での保ち合いは要注意と言えるでしょう。保ち合いの下のラインはフシと同じ意味を持っているので下値支持線を下回ると言う事は、つかえ棒が外れるような物ですのでひとたまりもありません。

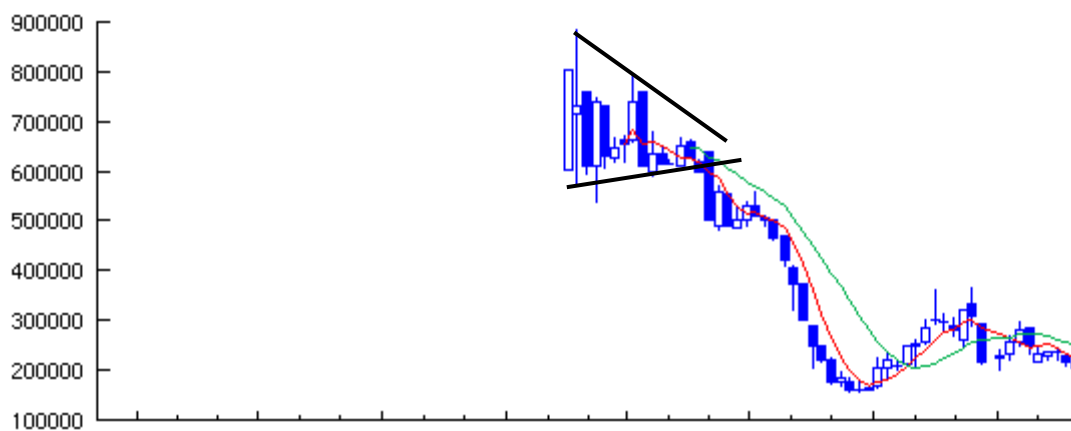
又このチャートの場合は高値圏での「上値切り下げ型」ですので下放れる可能性が高いとも言えます。なぜなら「上値切り下げ型」と言う事は売り方優勢を意味しているからです。この様にその背景を加味すれば「保ちあい放れ」の分析精度も高まると言えるでしょう。



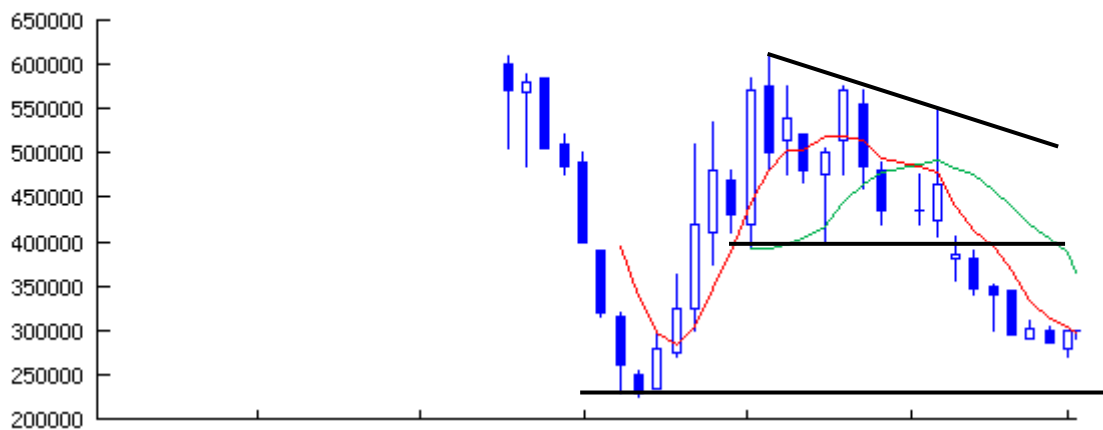
上のチャートも同じ様に三角保ち合いを下放れて株価が急落したケースです。



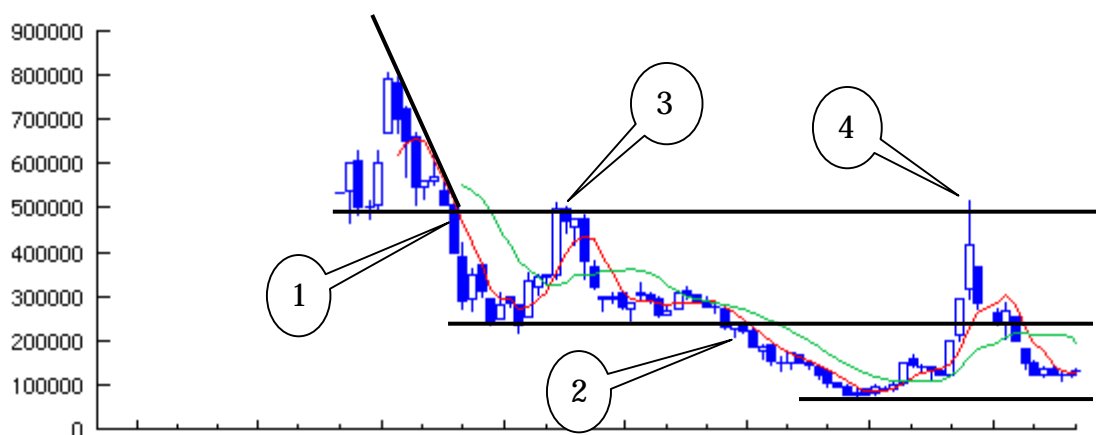
上のチャートは三角保ち合いを上放れて株価が急騰したケースです。



上のチャートは三角保ち合いを下に放れて株価が急落したケースです。



上のチャートの場合も保ち合いを下に放れて株価が急落しています。保ち合いのみに下にあるフシは最安値の 1 番下のラインだけですので最悪の場合はそのラインまで下がる可能性があると言えます。



は保ち合いの下放れであり はフシで頭を押さえられています。株価とはこの様に上下に動きながら後々重要となる様々な仕掛けをして行きます。その仕掛けを読み切った者が株式投資の勝者となれるのでしょうか。

第 9 回終了